

2020 年 10 月 9 日

【開幕】開館記念 秋冬プログラム
小沢剛展 オールリターン
—百年たったら帰っておいで 百年たてばその意味わかる
 会期：2020 年 10 月 10 日（土） - 2021 年 3 月 21 日（日）

風景の中に自作の地蔵を建立し写真に収める《地蔵建立》や、日本美術史上の名作を醤油で描いてリメイクした《醤油画資料館》など数々のシリーズ作品を発表し、世界的に活躍する現代アーティストの小沢剛。近年はグローバルに活躍した近現代の人物を題材に事実とフィクションを交え、絵画、映像、音楽で構成される《帰って来た》シリーズに取り組んでいます。同シリーズでは、これまでに野口英世、藤田嗣治、岡倉覚三（天心）などに注目し、ガーナ、インドネシア、インドなど世界各地へ小沢自らが取材に訪れて現地の研究者や看板絵師たちとの共同制作を行ってきました。

このたびの東北地方初となる大規模な個展に際し、作家は弘前ゆかりの近現代の人物を題材とした、本シリーズの新作《帰って来た S.T.》を構想しました。イランの画家やミュージシャンらの協力を得て制作されたこの新作とともに、2013 年より開始されたシリーズ全 5 作品を新たに構成し直し一挙に公開。歴史上の偉人たちのあまり知られていない側面に光を当て、文化の違いや時空を超えて、我々の生きる「今」についての思索を促す《帰って来た》シリーズを包括的に捉えます。

約 100 年の時間を経て美術館として再生され「帰って来た」弘前れんが倉庫美術館において、大々的に開催される本展は、異なる地の人々との接点を自ら見出し、関係性を築くことで歴史に対する新たな視点や未来を想像/創造することや、コロナ禍で旅や直接的な交流が制限されるなか、協働作業の可能性やコミュニケーションの在り方、さらには、芸術作品のかたちや土地や人との繋がりについても考えるまたとない機会になるでしょう。



《帰って来た S.T.》2020 年 展示風景 撮影：楠瀬友将

広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当：大澤、石川（公）

TEL：0172-32-8950 FAX：0172-55-5982 E-mail：press@hirosaki-moca.jp 〒036-8188 青森県弘前市吉野町 2-1

展覧会のみどころ

1. 弘前ゆかりの人物を題材に、地元のねぶた組師や津軽三味線奏者らも参加して作られた新作展示

小沢剛は 2018 年より弘前れんが倉庫美術館のための新作構想に着手しました。弘前、青森県内、イランでのリサーチや各地の協力者との議論、東京藝術大学や弘前市内の学生らとのワークショップ展示などを経て制作を進めてきました。約 2 年の歳月をかけて完成した新作の展示制作には、弘前在住の津軽三味線奏者・小山内薫や人形ねぶた組師・中川俊一らが参加しています。ダイナミックな吹き抜け空間で、まるで天地が逆転したかのように青森県周辺の海の深さを体感できる大掛かりな展示をご覧ください。

2. 《帰って来た》シリーズ全 5 作品を再構成して公開

本展では、2013 年から 2020 年にかけて制作された《帰って来た》シリーズ全 5 作品を通して、シリーズの全体像に迫ります。その際、それぞれ独立した作品ながら、異なる映像を連動させることで、元煉瓦倉庫の空間を生かした劇場型のインスタレーションとして、この場所ならではの新たな鑑賞体験を提案します。

3. 全シリーズのドキュメント資料を初公開

《帰って来た》シリーズでは、旅を通した様々な協力者たちとの出会いや交流から、物語、歌、絵画、映像が生み出されていきます。本展では、各地のコーディネーターや様々な研究者、ミュージシャンらとともに作り上げられた全シリーズの旅の記録写真や参考書籍などを初めて公開。また題材となったグローバルに活躍した近現代の人物たちに関する年表やその間の世界情勢年表、美術史年表などを通して歴史を概観します。

アーティスト紹介



小沢剛 / OZAWA Tsuyoshi

1965 年東京生まれ、埼玉在住。

ユーモアを交えながら歴史や社会を鋭く批評する絵画、写真、映像、インスタレーションといった多様な手法の作品で知られる。東京藝術大学在学中から、風景の中に自作の地蔵を建立し、写真に収める《地蔵建立》を開始。1993 年から牛乳箱を超小型移動式ギャラリーに見立てた《なすび画廊》や《相談芸術》を開始。1999 年には日本美術史の名作を醤油でリメイクした《醤油画資料館》を制作。2001 年より女性が野菜でできた武器を持つポートレート写真のシリーズ《ベジタブル・ウェポン》を制作。主な個展に「同時に答えろ Yes と No!」（森美術館、2004 年）、「透明ランナーは走りつづける」（広島市現代美術館、2009 年）、「不完全ーパラレルな美術史」（千葉市美術館、2018 年）などがある。2007 年より中国のチェン・シャオション、韓国のギムホンソックと結成した「西京人」としての活動も展開。第 69 回芸術選奨文部科学大臣賞受賞（2019 年）。

《帰って来た》シリーズ第一作から第五作まで

《帰って来た Dr. N》（2013 年）

2F ホワイエ



《帰って来た Dr. N》（2013 年）の制作風景
作家蔵

第一作の「Dr. N」は、2013 年の第 5 回アフリカ開発会議に関連して制作されました。小沢は、東日本大震災及び原発事故の前年に福島でワークショップを実施するなど個人的に縁があり、福島の惨禍にアーティストとしてなにが出来るかという問いのもと、当地とアフリカを結ぶ人物として、福島出身でガーナで亡くなった野口英世を題材に選びました。小沢の下絵をもとに、現地の看板絵師らが描いた絵画の前半は細菌学者としてグローバルに活躍した野口の人生をもとに、後半は野口の孫が研究者として福島に戻って来るといふ小沢の想像の世界が描かれています。

※本展では映像作品のみを展示しています

《帰って来たペインターF》（2015 年）

展示室 2



《帰って来たペインターF》（部分）2015 年
撮影：椎木静寧
森美術館蔵

第二作の「ペインターF」は、戦時中日本陸軍がアジアの植民地で進めていた文化政策に、日本の芸術家たちが深く関与していたことや、グローバルな活躍と戦争画の取組みが注目された藤田嗣治が繋がるかたちで生まれました。パリで活躍していたが、第二次世界大戦で日本に戻り従軍画家として戦争画を描いた後、追い出されるかのように日本を出てフランスに帰化した藤田とは異なり、インドネシアの「バリ」に渡り、名もなき画家として人生を終えるペインターF。支配国、被支配国という枠組みを超えていかに複眼的に戦争を捉えることが出来るのか、大きな時代の変貌の時に、アーティストとしてどういう態度をとるべきなのかといった作家の問いが見て取れます。

《帰って来た J.L.》（2016 年）

展示室 5



《帰って来た J.L.》（部分）2016 年
作家蔵

第三作は、小沢の住むさいたま市に以前ミュージアムがあったことから、当地と世界を繋ぐ媒介者として、平和運動にも熱心だったジョン・レノンに着目。1966 年、ビートルズが東京初公演の次の公演先としてフィリピン・マニラ入りした際、何かの誤解でマルコス大統領夫人主催のパーティーへの出席を断ったため、怒りに満ちた民衆から追い出されるようにフィリピンを去ったという事件から発想し、理想と平和を夢見る「J.L.」が何度も帰って来るといふストーリーを構想。映像シーンを、フィリピン国民の反対運動によって稼働されぬまま長期間閉ざされていたパタアン原子力発電所で撮影するなど、さいたまーフィリピンを繋げつつ、原発や基地問題、移民問題、発展の失敗などに対する作家の関心を反映しています

《帰って来た K.T.O.》（2017 年）

展示室 1



《帰って来た K.T.O.》（部分）2017 年

撮影：椎木静寧

作家蔵

第四作の「K.T.O.」は、横浜生まれの思想家、美術史家であり、小沢の母校で現在は教授職にある東京藝術大学の前身、東京美術学校で校長を勤め、グローバルな活躍をした岡倉覚三（天心）が題材です。人間の生命や平和を尊び、地域的視点と世界を俯瞰する視点を併せ持ち、日本近代美術の基盤づくりに尽力した岡倉の足跡をたどるべく、彼が長期滞在したインド・コルカタや、終の棲家となった茨城県の五浦などに取材し作品は仕上げられました。作品の後半は、近未来に帰って来ると想定した岡倉の心象を想像しつつ、彼が愛した六角堂が津波に揉まれる様子などが描かれています。

《帰って来た S.T.》（2020 年） ※新作

展示室 3



《帰って来た S.T.》（部分）2020 年

弘前れんが倉庫美術館蔵

弘前れんが倉庫美術館のコミッションワーク（委託制作）である新作では、弘前に生まれ、劇作家、演出家、歌人であり、演劇実験室「天井桟敷」を主宰した寺山修司に注目。時代を挑発し、ジャンルの境界を超えて活躍した寺山は多くの海外公演や映画祭に参加するなどグローバルに活動しており、イランの芸術祭にも2度参加。当地の現代演劇にも影響を与えたとの話から、寺山とイランの関係をもとに構想されました。絵の前半は寺山の人生、後半は死後の世界が生と対比するかのような構成となっており、虚構人生や死への関心などが見て取れます。反政府デモやコロナ禍での渡航禁止などの困難に見舞われながら、国や文化の異なる様々な他者たちといかに繋がり協働ができるのか何度も再考しながらの制作となりました。



《帰って来た S.T.》2020 年 展示風景

撮影：楠瀬友将

円卓会議の部屋―帰って来た人たちのアーカイブと百年

展示室 4

2013 年に始まった《帰って来た》シリーズの第一作から 2020 年の最新作まで全 5 作品の制作の裏側やプロセスを紹介すべく、それぞれの詳細情報、記録、ドキュメントアーカイブなどを展示。また、題材となったグローバルに活躍した近現代の人物たちに関する年表やその間の世界情勢および美術史年表などを並列し、煉瓦倉庫が生きてきた約 100 年の時間とも重なる彼らが生きた時代をより包括的に捉えます。

弘前エキスチェンジ #02

寺山修司

弘前れんが倉庫美術館では年間を通じて「弘前エキスチェンジ」プログラムを開催します。弘前出身やゆかりのアーティスト、地域の歴史や伝統文化に新たな息吹を吹き込むクリエイターや研究者らとともに、展示やワークショップ、トークなど様々な形で企画を展開します。「エキスチェンジ＝交換」という名前に込められたように、本プロジェクトはローカル（地域）とグローバル（世界）、作り手と地域の人々そして鑑賞者といった異なる視点が交差し、ふれあい、交換される場を生み出すことで、新たなアプローチで地域性の考察、地域の創造的魅力的再発見や発信に繋がることを目指します。

弘前エキスチェンジ #02 では、本展に関連して、弘前生まれで詩歌、演劇、小説、映画、評論、写真、歌謡曲など幅広い分野で従来の枠を超える表現活動を展開し、グローバルに活躍した「寺山修司」に注目します。展示室の最後のコーナーでは、弘前出身の文筆家である世良啓の協力を得て、「寺山修司『へその緒』さがしー隠された生地弘前の謎ー」と題し、Twitter のツイートをイメージしながら弘前と寺山に関するいくつかのトピックなどを紹介。これらをきっかけとして、鑑賞者が弘前と寺山の関係への考察を深め、新たなトピックが生まれ増殖していくことを意図します。

さらには、会期中、様々なゲストを迎え、トークや上映会、オンラインプロジェクトなどを予定しています。

トーク 寺山修司と弘前とイラン

アーティストの小沢剛、イランでの寺山の舞台を鑑賞し、日本や寺山演劇に詳しいテヘラン大学のザーヘディ准教授や寺山と共に海外公演などに参加した佐々木英明らが、小沢の新作《帰って来た S.T.》を基点に、寺山と弘前とイラン、海外における寺山といった視点について思索を巡らせます。

出演 | 小沢剛（アーティスト）、ファリンフドフト・ザーヘディ（テヘラン大学准教授 ※ビデオ出演）、佐々木英明（寺山修司記念館館長） 司会：三木あき子（ゲスト・キュレーター）

日時 | 2020 年 10 月 10 日（土）15:00-17:00

会場 | 弘前れんが倉庫美術館 ライブラリー

料金 | 参加無料 定員 | 50 名（予約先着順）

申し込み | ウェブサイト <https://h-moca20201010talk.peatix.com> または電話での申し込み

上映会 & トーク 帰って来た S.T.と寺山映画

寺山修司監督・脚本による映画「田園に死す」（1974 年）を、小沢剛の新作《帰って来た S.T.》展示空間内で特別上映します。あわせて、三沢市にある寺山修司記念館学芸員の広瀬有紀と小沢剛が、寺山映画と小沢の新作《帰って来た S.T.》について、また、いまなお新たな世代に影響を与え続ける寺山の存在や作品世界について意見を交わします。

トーク出演 | 広瀬有紀（寺山修司記念館学芸員）、小沢剛（アーティスト ※オンライン参加）

日時 | 2020 年 11 月 22 日（日）18:30-21:00

会場 | 弘前れんが倉庫美術館 展示室 3

料金 | 参加無料 定員 | 30 名（予約先着順）

申し込み | ウェブサイト <https://201122screening.peatix.com> または電話での申し込み

トーク 誰か故郷を想はざる——なぜ寺山修司は弘前生まれと書かなかったのか

世良啓をホストに出演者とのトークを通して、寺山はなぜ自分が生まれた弘前について一度も語らなかったかについて、今年生誕 85 年を迎える寺山修司の隠された生誕地である弘前の謎を、歴史や時代背景、寺山の自伝『誰か故郷を想はざる』から紐解きます。

出演 | 世良啓（文筆家）、鎌田慧（ルポルタージュ作家）、鎌田紳爾（作家・音楽家）、斉藤光政（ジャーナリスト）、小沢剛（アーティスト ※オンライン参加）

日時 | 2020 年 12 月 5 日（土）14:00–16:00

会場 | 弘前れんが倉庫美術館 ライブラリー

料金 | 参加無料 定員 | 50 名（予約先着順）

申し込み | ウェブサイト <https://201205talk.peatix.com> または電話での申し込み

トーク & ワークショップ 書を捨てよ町に出よう——メイキングオブ帰って来た S.T.

本展では《帰って来た》シリーズ全 5 作の調査資料や写真などのアーカイブを通して、作品の制作プロセスなどにも触れます。この回は、作家自身が制作における様々なエピソードを語ることで、作品制作について参加者と共有するとともに、ポストコロナの時代における「旅」や協働作業の可能性や芸術のかたち、人と人の繋がりなどについても考えます。

出演 | 小沢剛（アーティスト ※オンライン参加）

日時 | 2021 年 1 月 23 日（土）9:00–17:00

会場 | 弘前れんが倉庫美術館 展示室・スタジオ B

料金 | 参加無料 定員 | 20 名（予約先着順）

申し込み | ウェブサイト <https://210123ws.peatix.com> または電話での申し込み

※申し込み電話番号はいずれも 0172-32-8950

※11 月以降のプログラムは 2020 年 10 月 10 日（土）より予約開始

音声ガイド

本展の音声ガイドをウェブサイト上で公開します。来館者が自身のスマートフォンで専用ウェブサイトにアクセスすることで展示解説を無料で聴くことができます。

会場で専用ウェブサイトにアクセスするための QR コードを掲示します。 ※10 月中旬に公開予定

展覧会ブックレット

作品解説や展示風景写真、テキストなどを収録した展覧会ガイドブックを 12 月に発行予定です。ブックデザインは、本展のポスターやチラシ、会場デザインなどメインビジュアルを手がけたデザイナー、大岡寛典が担当。当館に隣接する「museum shop HIROSAKI MOCA」およびオンラインストアで予約・購入できます。2020 年 10 月 10 日（土）より予約開始します。

発行日 | 2020 年 12 月（予定）

発行 | 弘前れんが倉庫美術館

仕様 | A5 判（表紙：片観音開き）、60 ページ（予定）、フルカラー

言語 | 日英バイリンガル

価格 | 800 円（税込）

オンラインストア <https://hirosakimoca.thebase.in>

開催概要

- ｜ プログラム名： 弘前れんが倉庫美術館 開館記念 秋冬プログラム
小沢剛展 オールリターン
―百年たったら帰っておいで 百年たてばその意味わかる
- ｜ 会期： 2020 年 10 月 10 日（土） - 2021 年 3 月 21 日（日）
- ｜ 開館時間： 9:00 - 17:00（入館は閉館の 30 分前まで）
- ｜ 休館日： 火曜日（祝日の場合は翌日に振替）
年末年始（12 月 26 日（土） - 1 月 1 日（金）まで）
- ｜ 観覧料： 一般 1,300 円（1,200 円） 大学生・専門学校生 1,000 円（900 円）
※（ ）内は 20 名様以上の団体料金
※ 以下の方は無料
高校生以下の方/弘前市内の留学生の方/満 65 歳以上の弘前市民の方
ひろさき多子家族応援パスポートをご持参の方/障がいのある方と付添の方 1 名
- ｜ 主催： 弘前れんが倉庫美術館
- ｜ 特別協賛： スターツコーポレーション株式会社
- ｜ 協賛： 株式会社 NTT ファシリティーズ
- ｜ ゲスト・キュレーター： 三木あき子
- ｜ 会場： 弘前れんが倉庫美術館 〒036-8188 青森県弘前市吉野町 2-1
- ｜ 一般問合せ： TEL: 0172-32-8950
- ｜ アクセス： JR 弘前駅より
- 弘南バス・土手町循環 100 円バス「中土手町」下車 徒歩 約 4 分
- 徒歩 約 20 分
- タクシー 約 7 分
- ｜ ウェブサイト： <http://www.hirosaki-moca.jp>
- ｜ SNS： Instagram：@hirosaki_moca
Twitter：@hirosaki_moca
Facebook：@hirosaki.moca

FAX:0172-55-5982 または E-MAIL press@hirosaki-moca.jp

2020 年 10 月 9 日

弘前れんが倉庫美術館（青森県弘前市）

小沢剛展 オールリターン —百年たったら帰っておいで 百年たてばその意味わかる

会期：2020 年 10 月 10 日（土） - 3 月 21 日（日）

広報画像貸出書

▼貴媒体についてお知らせください。

媒体名	貴社名	
ご担当者	所属部署	
ご住所 〒		
電話番号	FAX 番号	E-MAIL
掲載・放映の予定が決まっていたらお知らせください。		

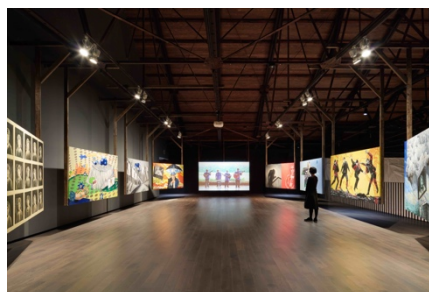
読者プレゼントのご希望 ☐希望する 組 名様（2020 年 12 月 31 日迄 掲載対象） ☐希望しない
*画像 1 点以上ご掲載の場合、本展の招待券 10 枚まで提供します。 / 美術館までの交通費は自己負担のご案内をお願いします。

▼広報画像は、希望される画像の番号に「○」で印をつけてください

[1]



[2]



[3]



[4]



[5]



[6]



[7]



広報画像にはすべて以下キャプション・クレジットを併記してください

- [1] 小沢剛《帰って来た S.T.》2020 年 展示風景 撮影：楠瀬友将
- [2] 小沢剛《帰って来た J.L.》2016 年 展示風景 撮影：楠瀬友将
- [3] 小沢剛《帰って来た S.T.》（部分） 2020 年
- [4] 小沢剛《帰って来た K.T.O.》（部分） 2017 年 撮影：椎木静寧
- [5] 小沢剛《帰って来た J.L.》（部分） 2016 年
- [6] 小沢剛《帰って来たペインターF》（部分） 2015 年 撮影：椎木静寧
- [7] 小沢剛《帰って来た Dr.N》（2013 年）の制作風景

<広報画像、取扱に関する規定>

- 広報画像の使用は美術館をご紹介いただく場合のみとさせていただきます。
- 広報画像をご紹介いただく場合、指定のキャプションとクレジットを必ずご記載ください。
- 全図で使用してください。トリミング、変形、部分使用、文字のせは原則禁止となっております。
- 掲載記事・番組内容については、基本情報確認のため、可能な範囲でゲラ刷り・原稿の段階で広報まで FAX またはメールでお送りください。

広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当：大澤、石川（公）

TEL：0172-32-8950 FAX：0172-55-5982 E-mail：press@hirosaki-moca.jp 〒036-8188 青森県弘前市吉野町 2-1